

温室メロンの隔離床栽培技術の開発と 優良品種の育成に関する研究

大泉 利勝 氏（59歳）
千葉県農林総合研究センター
暖地園芸研究所 所長



1 業績の概要

背景

千葉県は、金網隔離ベンチで周年栽培する方式の温室メロンの主要産地である。現状の金網隔離ベンチ栽培は、従来栽培の床作りの労力軽減を目的に昭和50年頃から急速に普及した。当時、この新技術の導入に当たり、周年栽培を目指した栽培品種統一のための優良品種選定をはじめ、解決すべき栽培上の諸問題が数多くあった。また、メロン栽培における巻きひげは、つるが絡み合って誘引・整枝作業の負担となっていた。

研究内容・成果

アールス系原種の自然突然変異系から巻きひげのないメロンを選抜固定して「千葉TL」を育成し、これを素材に、メロンのつるの誘引・整枝作業が容易で省力化が可能な「TLタカミ」を育成した。この品種は誘引・整枝の作業時間が従来品種に比べて約58%削減でき、大幅な省力栽培が可能となった。

温室メロンの品種育成では、従来の品種より低温栽培が可能で、果実が大きく形質の優れた冬どり用の「千葉F31号」を育成した。その後、高級温室メロンとして、果実の裂果が少なく、味や香りが上品で、ネットの美しさなど果実形質が優れ、果実肥大が良い初夏及び秋どり用の「アクアQueen」を育成した。さらに、晩秋どり用の「アクアプリンセス」を育成した。

温室メロン隔離ベンチ栽培の解決すべき周年生産栽培技術の確立では、各作型別の前夜半及び後夜半の温度管理技術、病害虫防除法の確立及び連作土を完全に消毒する蒸気土壌消毒機の消毒温度及び消毒時間などの各管理技術を開発した。



「TLタカミ」と「タカミ」との作業時間の比較

| | 2本 仕立て | 交配 前まで | 交配時 | 玉選び 時 | 玉選び 後 | 合計 |
|-------|-----------|-----------|-----|----------|----------|------|
| TLタカミ | 2.8 | 4.2 | 5.6 | 27.8 | 1.4 | 41.8 |
| タカミ | 3.1 | 5.6 | 9.7 | 69.4 | 11.1 | 98.9 |
| 比 | 90 | 75 | 58 | 40 | 13 | 42 |

注：単位は誘引・整枝時間/10a、比はTLタカミ/タカミ

普及状況

「TLタカミ」の販売額は約7億円である（平成22年）。温室メロンの「千葉F31号」、「アクアQueen」、「アクアプリンセス」は、千葉県内生産者の50~60%で栽培されている主要品種である。金網隔離ベンチ栽培の周年生産栽培技術は、ほぼ100%の生産者に普及している。

2 評価のポイント

巻きひげのないメロン品種「千葉TL」を育成してメロン栽培の大幅な省力化を可能にし、この品種を育種材料として育成された「TLタカミ」ほか市場価値の高いメロン品種を育成、普及したことを高く評価した。